

## ベトナム

## 内需は好調も輸出に陰り

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部  
副主任研究員 松本 充弘  
matsumoto.mitsuhiro@jri.co.jp

## ■内需が景気をけん引

ベトナムの2022年7~9月期実質GDP成長率は前年同期比+13.7%と前期の同+7.8%から伸びが大きく高まった(右上図)。これには、昨年夏に新型コロナの流行に伴いロックダウンが実施された反動が大きい。最近の好調な内需もGDPの高い伸びに反映されている。産業部門別ではサービス業(GDPの約4割)が同+18.9%(前期は同+8.9%)と全体をけん引した。とりわけ、国内旅行が急拡大していることから宿泊・飲食が同+172%と大幅に増加した。

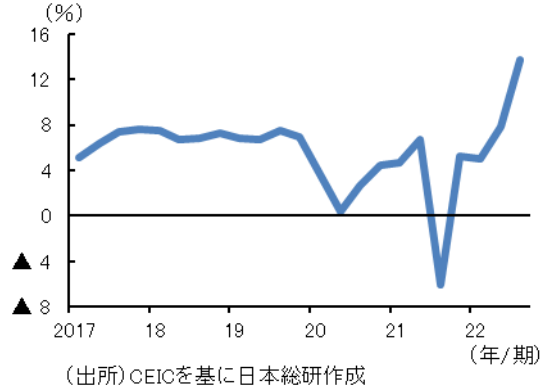
足元にかけても、内需が緩やかに拡大している。9月の小売売上高(サービス含む)は前月比+0.5%とプラスを維持しているほか、9月の新車販売台数も前月比+8.5%と増加傾向が続いている。この背景には、良好な雇用環境がある。7~9月期の失業率は2.28%とコロナ禍前の水準まで低下した。好調な内需を背景に生産面も堅調であり、9月の鉱工業生産指数は自動車けん引して前月比+1.8%と高水準を維持した。9月の製造業PMIも52.5と、景況感の分岐点となる50を12ヵ月連続で超えている。一方、財輸出は頭打ち傾向にある(右下図)。世界的なスマホ需要の減速で、ベトナムの最大の輸出品目である携帯電話関連(2021年の輸出に占めるシェア17%)の9月の輸出額が前年同月比▲6.8%と低調であった。今後もスマホ需要の減速が続くことで財輸出全体を下押しするとみられる。

## ■利上げにより景気回復ペースは鈍化へ

先行きの景気回復ペースは鈍化する見込みである。ベトナムではインフレ圧力が高まりつつあり、9月の消費者物価は前年同月比+3.9%と政府目標上限(+4%)に迫った。中央銀行はインフレ抑制を目的に、9月に1%ポイントの大幅な利上げに踏み切ったが、今後も追加利上げが実施される公算が大きい。それにより、消費と設備投資に下押し圧力がかかり、景気回復をけん引してきた内需の拡大ペースは鈍化するとみられる。

一方、景気対策として期待される公共投資については不透明感が強い。ベトナムでは、原材料高や人手不足、行政手続の遅れ等の理由で公共投資の実行が遅れており、2022年の予算に対する消化率は9月末で50%にとどまっている。さらに、建設コストの約2割を占める鉄鋼やセメントが足元で値上げされており、今後の投資実行に支障をきたす可能性もある。公共投資の遅れで成長率が押し下げられるリスクに注意を要する。

&lt;実質GDP成長率(前年同期比)&gt;



&lt;輸出額(季調値)&gt;



当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。